

2018年

ホームページへGo!→
スマホで教室だよりが見れます

教室だより3月号



公文式本市場教室 火・木 3～7時 TEL 61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3～7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

彼岸

3月21日は春分の日です。この日の前後は「お彼岸」といわれています。彼岸には春彼岸と秋彼岸があり、それぞれ、春分の日、秋分の日を中日として、その前後の3日を合わせた7日間を彼岸といいます。

仏教では、私たちの住む世界をこちらの岸、三途の川（さんずのかわ）を挟んで、ご先祖様の霊が住む世界をあちらの岸と考えられていて、こちらの岸を「此岸（しがん）」、あちらの岸を「彼岸」といいます。

極楽浄土は西の彼方にあるとされているため、太陽が真西に沈む春分・秋分にお墓参りや先祖供養を行うようになったといわれています。これは本来の仏教にはない習慣で、日本独自のものです。

彼岸の中日である春分の日が「自然をたたえ、生物をいつくしむ」、秋分の日が「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ」という意味をもち、昔から先祖崇拝や豊作に感謝してきた日本らしい文化が影響していると思われます。

「暑さ、寒さも彼岸まで」という言葉がありますが、これは気候のことだけではなく、彼岸は迷い、悩み、煩悩に惑わされている人間が、悟りの世界と通じる時でもあるため、「暑さ寒さやそれに伴うさまざまなつらさも、彼岸の頃には和らいで楽になるよ」という励ましの意味も込められているようです。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“学力を定着させながら進む「くり返し学習」が目指すもの”

公文式は、できるだけ多くのお子さんに、できるだけ早く学年相当の学力をしっかりと身につけてもらい、その後も少しずつ先へ進んでいってほしいと願っています。そのために、必要なくくり返し学習（「復習」と呼んでいます）をさせながら、いずれはまだ学校では習っていない内容でも自分で学習していけるように指導します。

公文式は、あくまで個人別の学習法ですから、同じ教材であっても、どの部分を何回くり返すかは一人ひとり違います。ある子どもはスーッと通過できた箇所でも、別の子どもは2回、3回とくり返し学習が必要な場合もありますが、それが先に進んでも自習できるようにするために必要なことなのです。公文式の「くり返し学習」は自習で学年相当の内容を越えて学習させ、確かな学力を身につけさせるために大切なものなのです。

2018年3月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21 春分の日	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

本市場教室日□

横割教室日△

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

3月分の会費引き落としは2月28日（水）です。よろしくお願いいたします。

（注）休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は
固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願います。

*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

*ゆき子の一言コラム

1. 努力に努力を重ねて

苦手な算数を克服したいと小5で2A教材のたし算から公文を始めたSくん。Y先生は目標を決めることでやる気を高めようと「中学に入るまでにG教材（中1相当）を勉強しているようになろう」と提案した。

物静かで口数も少ないSくんだが「がんばります」と力強い返答。その言葉通り、一日30枚のプリントを学習する。訂正が多く、なかなか先に進めない時もあったが「ここは難しいところだから」「あなただけができないんじゃないよ」と先生は声をかけ続けた。くじけそうなときには「あなたが一番がんばっているね」と励ましながら。根気よく学習をくり返し、一年後の小6・2月には目標を達成。G教材に入った。小6からは英語もスタート。算数で身につけた自学自習の姿勢と英語への興味でどんどん教材は進み、中学では英語が得意科目になる。数学も着実に力を伸ばし、学校での成績は上位に。部活動の卓球でも活躍し県大会に出場した。

「自分のやりたいことに積極的に取り組み、イキイキしています。学校でのことなど、いろんな話をしてくれるようになって」とお母さんも驚く程の変化だった。将来は英語の先生になりたいと、現在は大学の英米科に進学し、目標に向かってがんばっています。

「壁にぶつかることもあるけれど、乗り越えた時の喜びはとても大きい」と後輩たちへのメッセージを残してくれたSくんなら、自分で見つけた道を切りひらいていってくれるだろう。努力を重ねるSくんの姿は、先入観で子どもの限界を決めてはいけないと教えてくれました。

2. 悔しさをバネに

1歳10か月で学習を始めたHちゃんは負けず嫌いな女の子。

幼児の頃は、難しいと思ったり、間違えたりすると「もうやらない!」と悔しさを爆発させ、「じゃあ、もうやめてもいいから」とうと、「いやだ、やる」と泣きながら最後までやり通していた。小1の時、算数H教材の連立方程式でつまづき、プリントをくしゃくしゃに丸めてポイと投げってしまう。解けない苦しさやもどかしさが抑えきれなかったのかもしれない。しかし「ここまでがんばって解いたのにどうして? それにプリントは大事にしなきゃだめ。そんなことするのなら帰りなさい」としかると本当に帰ってしまった。家に連絡して事情を話し「うまくいかないときもあるけれど、みんな自分で乗り越えています。Hちゃんも心配ないと思います」と伝えると、お母さんも「そのうち落ちついて学習できるようになるでしょう」と。いつも学校帰りにスイミング教室に通い、それから公文の学習もしっかりやる根性のあるHちゃん。きっと悔しさをバネにがんばってくれると信じていると、次の教室日にはいつも通りやってきて、くしゃくしゃのプリントを広げて学習を始めた。それからは、泣くことも途中で帰ることもない。おとうさんには「公文は絶対にやめないからね」と話しているという。それは、Hちゃんが自分の力でできた時の喜びや達成感を知っているからだろう。困難と向き合い、のり越えることも大切な経験。つらいときにもあきらめずにがんばれるよう、子どもの気持ちにより添い、状況に応じて対応をするのも指導者の役目です。

夢の実現のためにも

「子どもにはそれぞれに可能性があると信じています」だからこそ子どものやる気を引き出し、その気持ちを学ぶ楽しさに変えて、限界を決めずに伸びるだけ伸ばしてあげたい。そして公文で積み重ねた努力、身につけた力が、いつかやりたいことを見つけたときの後押しになるようにと願っています。「学校の先生になりたい」「獣医さんになりたい」「アイドルになりたい」…子どもたちの夢はさまざま。自分の進むべき道を見つけ、しっかりと歩んでいける力を培えるようにと、先生は一人ひとりを温かく見守っています。

*教室での決まりごと。

- ・はきものはきちんとそろえよう!
- ・あいさつは おおきなこえで はっきりしよう!
- ・もちものには なまえ をかきましょう!
- ・でんわをかりたら かならず でんわ代10えん いれてください!

教室は午後7時に終了します。学習に要する時間を逆算して来てください。また、できる限り学習日には、学校が終わったらすぐ来るようにしてください。たっぷり遊んでからでは、勉強に集中できません。